



平成十七年八月二十日  
〒九三二〇八〇四  
高岡市岡屋町四十  
有限会社 沖商店発  
2015.8.21  
TEL 〇七六二一五二五五  
FAX 〇七六二一五二五〇  
E-mail info@okt-shouten.com

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』『そんなことを皆様と一緒に考えたい。そして皆様の意見を頂きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいます様お願い申し上げます。』

一 衆議院議員選挙に思うこと

郵政民営化法案が参議院で否決され、小泉首相は、即、衆議院を解散し総選挙となりました。私は、今回の解散・総選挙はなかなか意義の有る事ととらえています。

それは、今日の日本の国会議員に対し、「議院制民主主義」の名の下で民衆を代表した自分達が、その本分を忘れ一部の団体・組織の手先となつて働いただけの走狗と成り果てている(こんな方々を「族議員」という)にも拘らず、「そんな自分にも気付かず、その立場を利用して己の利ばかりを図り、それをもつて自分に与えられた天の使命と考えていた」という間違いを、思い直させ反省させしめてくれる良い機会になるかも知れないと思っております。

今日現在の日本の国会議員(全部とは言いませんがほとんど)は驕慢・横柄・低俗・利己的・狡猾・卑怯・無知・怠慢・無責任です。

いつからこうなつたのか定かではありませんが、こゝ最近の国会議員の質の悪さにはあきれざるばかりです。昔明治維新(第一次世界大戦終了時)は、満点ではないとしても『私が理想とする国会議員(政治家)が少なからず居られたような気がします。』

それで彼らについて、私見を述べたいと存じます。昔は、ある程度の人格の持ち主で、資産家でないと政治家に成れませんでした。(今は人格・品位は関係ありませんし、資産の有無も関係ありません)

当時は日本全国が貧乏でしたから、高等教育を受けられる人は、極一部の財産の有る家の者、財産がないとしたら、よほど学業の成績優秀な者、に限られていました。したがって、政治家に必要な人格的要素教養があり、常識が発達して社会的公共性に富んだ者を持った者も、自ずとそのような人達に限定されてきました。そんな人達の中から俠気が有る者が立候補し、さらにその中で、意欲と人望が有り、責任感が強いと思われた者だけが政治家として選ばれていました。

選挙権も今日のように国民全員に与えられていたわけではなく、納税額に応じて与えられ、甚だしきは公然と売買されていたとの事です。選挙戦も割りと自由に行われていたようで、選挙権が国民全員に与えられてからも、各選挙事務所では、意欲を示し人望を得るための手段として、食事は勿論酒も振舞われました。甚だしい例では、「〇〇の選挙事務所の食事は××の選挙事務所の食事より不味かった」とか「あちらの酒よりこちらの方が美味い」とかいったことが平気で言われていたと聞いています。帰りにお土産まで持たせたと云いますから、正に『お金のぶつけ相い競争』と言えます。

これほどまでにして得た国会議員の地位ですから「元を取るために立場を利用して財を回復しよう」と考えるのは、今日現在の日本の国会議員の発想(百姓・商人の考え)であつて、当時の国会議員は「国会議員を務める務めさせて貰う」とは「名誉」なことであり、その「名誉」のために自分は先祖伝来の徳・財を投入し選挙戦を勝ち抜いたのであつて、この身は「国家当時は天皇陛下に捧げ、命を捨てても惜しくない。もしそういう立場になれば、それこそ我が一族の『名誉』の發揮できる機会であり、先祖への面目も立つ」という正に武士道精神に基づいた考えであつたろうと思ひます。

即ち、昔の政治家は、「実より名利より誇」を重んじ、他人からお金を貰うなどと言うことは恥ずかしい行為だという考えでした。それに比べ、今の政治家は、「実利のみ」を重視していると思ひます。

以上、国会議員としての理想的在り方と、現実の国会議員の惨めな姿を比較するために、誇張して記しましたが、当時でも今日の国会議員のような者も居ましたし、今日でも当時の国会議員のような者も居

られるとは思いますが、ここでは私の意見としてお受け取り頂き、違つたご意見をお持ちの方には、是非賜りたいと存ずる次第であります。

ここで話は本題に戻りますが、今回の選挙は、政治改革を進める小泉首相の狙い通り「郵政民営化法案」だけを問題としたものとなりました。即ち、何を改革しようとしても「総論賛成、各論反対」の自民党の「族議員」に対し、国民全員の意見を聞く方法でその「族議員」達の粛清を試みたと言えよう。

民主党をはじめとする野党は今回の総選挙を「郵政民営化法案」だけを問題とした小泉首相の政治手腕の拙さと悪宣伝しています。即ち「今日の日本の政治上、国内のこんな小さな一法案のために、衆議院を解散するとは何事か。もっと審議すべき法案が沢山あるのに」と。

私は小泉首相がどんな思いで今回の行動をとつたのか判りませんが、結果的に「族議員」粛清をはじめとする政治改革が一步進んだと喜んでいきます。今回の自民党分裂選挙において自民党が敗れ、民主党に政権を奪われることになろうとも、敢然と改革に向けて挑んだ小泉首相の横暴さに拍手を送りたい気持ちです。結果的にどちらが勝とうと、今日までのマンネリ化した自民党政権下での閉塞的・窒息的圧迫感の政治をぶつ壊す糸口になつたのは歓迎すべきことだと思ひます。

ところで、今回の選挙の私の地区は富山三区で、広島六区と並び、まさに話題の激戦区です。綿貫民輔氏は、私どもの会社の第一番の納入先である「三協アルミ」が初当選以来ずっと支援して来た候補者だし、萩山教蔵氏は私どもの会社の第二番の納入先である「立山アルミ」がずっと支援して来た候補者だし、向井英二氏は私が住んでいる五十里という地区の市会・県会通して三十余年間支援・支持して来た候補者ですので体が三つほしいです。そして早く九月十一日が過ぎてくれなにかと思つています。

二 忘れる

今年(第二世界大戦、終戦六十年)ということ終戦記念日の十五日には各地で記念行事が行われま

した。そしてテレビ・新聞などで「戦後六十年、記憶が風化する中、二度と戦争を起さないうちに、戦争を知らない若者に戦争の悲惨さを語り継いで行かな

ければならない」由のコメントが多くなされていま

確かに、実際に有つた事実は記録して、間違いは二度と起さぬように努力しなければなりません。でも、砂糖の甘さを言葉で相手に伝えようとしてもできません。実際に舐めさせて「これが砂糖と言

うものです」というより外に方法がありません。これと同様にその人が味わつた苦しみはその人

なければ解りません。それを解らせようとするのは無理です。

私は、記録・記憶が風化して行くのは仕方ないことだと思ひます。そして何十年後、何百年後また同じ失敗を繰り返すことでしょう。誠に情けなく残念なことですが。

ただ、だから諦めて努力しなさんなど言うのではなく、出来得る限りの努力をした上で、そんな覚悟も必要ではないかと思ひます。

三 日中・日韓関係について  
戦後六十年が経ち、お隣、韓国・中国においても戦争の傷跡を風化させないようという事で、色んなイベントが行われている様子が報道されていま

した。こちらは日本が加害者側ですので、日本人の私にはなんともやるせない気持ちです。

すつきり忘れろと言つたのではなく「悪かったは悪かったで認め、謝つているのだから、いい加減にきりつけて、いつまでもじくじくいじめないで」と言

いたいです。ましてやこちらの「申し訳ない」と思つている一歩退つた態度に乗じて、領土問題を持ち出して自国の領土だと主張するに至つては、激しい反感を感じるとともに腹が立ちます。

また、教科書問題やら靖国神社参拜問題やらと、他人のお粥鍋の中へ手を入れるように、内政干渉して、いつまでも侵略国家の汚名をきせて反日感情を煽っているのには、隣人として仲良くやってゆく気があるのか疑いたくなります。

中国にも韓国にも、対立感情を捨て、相、協力して両国の利益になることを話し合い、ひいてはアジアの発展のための良きパートナーとなつて頂きたいものと思ひます。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘

個人Eメール 062525@okt-shouten.com

にこにこ通信への意見をはじめ個人的な連絡は、このEメールへ